

朝日地区

朝日地区の簡易水道は、昭和43年2月1日の高根簡易水道の給水開始に始まり、昭和44年蒲萄簡易水道、昭和45年薦川簡易水道、昭和58年千縄荳太簡易水道、そして平成11年小揚簡易水道が給水開始され、その後施設の拡張、統合、更新を経て現在に至っております。

近年の施設整備としては、平成8年水源枯渇により薦川簡易水道の水源変更及び膜処理設備の導入。水源枯渇により平成9年に荒沢簡易水道を上水道区域へ統合。平成10年水道未普及解消事業で小揚簡易水道を整備。そして平成15、16年統合整備事業により北大平簡易水道を高根簡易水道に統合しました。配水管路については上水道同様に下水道整備に合わせ概ね老朽管更新が終了し、石綿管更新も平成17年で終了しています。

〔水源・配水施設〕



左の写真は、小揚地区簡易水道浄水施設(H10)で、同敷地内に水源を有し滅菌のみの処理をしています。

この他に配水池があります。施設自体が比較的新しく、特に問題はない施設ですが、浄水場、配水池ともに耐震化が施されていないので、今後、耐震調査等を実施し、耐震対策の検討が必要です。

右の写真は、高根地区簡易水道浄水施設(H15)で、同敷地内に取水井を有し、高根川から表流水を集水管により取水し、膜処理を採用しています。

この他に配水池があります。また、予備施設として緩速ろ過池、統合した北大平地区の水源、配水池があります。

平成19年の集水管被災後、原水水質の悪化により、膜洗浄期間が著しく短縮され、維持管理コストが嵩むことから早急な対策が必要となっています。





左の写真は、蒲萄地区簡易水道浄水施設(H6)で、砂防ダムから取水し、急速ろ過を採用しています。

ダム水のため、原水の水質変動が大きく、高濁時等は 0.1 未満の浄水処理が困難となっています。また、近年の異常気象で更に水質等変動を来たしており早急に調査検討し、改善を図る必要があります。

この他、薦川地区簡易水道浄水施設(H8)、千縄荃太地区簡易水道浄水施設(S57)があります。